

資料⑤：公共交通の課題と公共交通網形成
計画策定に向けた考え方について

平成 28 年 12 月

南 城 市

1 各種調査における問題点の整理

ここでは、南城市網形成計画策定にあたり、公共交通に関する課題をとりまとめるため、ワークショップや各種調査で把握された問題点、課題を「ネットワーク（市外・市内）」、「交通結節・乗り継ぎ」、「公共交通までのアクセス」、「料金」、「情報提供・接遇」の視点で整理しました。

1.1 ワークショップで把握された問題点

ワークショップでは、以下に示す問題点が把握されました。

表 1.ワークショップで把握された公共交通の問題点(1/2)

視点	関係する問題点
ネットワーク（市外）	<ul style="list-style-type: none">●「那覇空港」、「那覇新都心」から南城市までの移動が不便だ●市外への病院までの移動が不便●観光客の移動手段がレンタカーに限られている●通学における移動の制約・高校生の移動手段は大半が親の送迎で負担が大きい。
ネットワーク（市内）	<ul style="list-style-type: none">●移動利便性に地域間格差がある●買い物のしにくさ・自動車を運転できない層にとっては買物場所が限定され、日常の買物に不便を感じている市民が多い●市内の病院までの移動が不便
交通結節・乗り継ぎ	<ul style="list-style-type: none">●次の手段までの待ち時間が長い。
公共交通までのアクセス	<ul style="list-style-type: none">●自宅からバス停まで、徒歩でアクセスするには距離がある
料金	<ul style="list-style-type: none">●交通弱者(特に高齢者、子ども)の経済的負担が大きい・市外への移動の際の乗り継ぎ・一律料金ではないので、立ち寄り先が多い場合利用しにくい。
情報提供・接遇	<ul style="list-style-type: none">●公共交通に関する情報不足・公共交通に関する情報不足により公共交通の利用が阻害されており、とくに高齢者はIT 機器に対して抵抗があるため、「バスロケ」を導入しても利便性のアップに直結しない。●どのバスに乗り換えれば良いのか分からない●多言語表記等がないため、外国人利用客が利用しにくい●運転手のマナー、アナウンスが不十分

表 2.ワークショップで把握された公共交通の問題点(2/2)

視点	関係する問題点
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●渋滞の慢性化 ●少子高齢化の進行 ●自動車交通への依存 <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通が十分でないことから、通勤や買物などの日常交通手段における自動車利用の割合が高い

1.2 アンケート・ヒアリングで把握された問題点

アンケート・ヒアリングでは、以下に示す問題が把握されました。

表 3.アンケート・ヒアリングで把握された公共交通の問題点

視点	関係する問題点
ネットワーク（市外）	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通網の見直しが必要だ。(事業者ヒアリング) ●「那覇空港」、「那覇新都心」、「那覇市中心部」、「首里地区」へのアクセス向上が必要(市民アンケート)(事業者アンケート)
ネットワーク（市内）	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通網の見直しが必要だ。(事業者ヒアリング) ●アクセス向上が必要(市民アンケート) <ul style="list-style-type: none"> ・商業施設(イオンタウン南城、アトール、ザ・ビッグ) ・奥武島 ・シュガーホール ・病院 ・役所 ●アクセス向上が必要(事業者アンケート) <ul style="list-style-type: none"> ・海岸沿い ・玉城地域内 ●行きたい時間に利用できない。(市民アンケート) ●便が少なく待ち時間が長い。(市民アンケート)
交通結節・乗り継ぎ	<ul style="list-style-type: none"> ●次の手段までの待ち時間が長い。(市民アンケート) ●乗り継ぎのため市外のバス停まで移動する必要がある(市民アンケート)
公共交通までのアクセス	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通利用者向けに広い駐車場がない。(事業者ヒアリング)
料金	—
情報提供・接遇	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通での来訪を案内しづらい。(事業者ヒアリング)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車交通への依存(市民アンケート)

1.3 観光客アンケートで把握された問題点 (H27 年度調査)

平成 27 年度に実施した観光客へのアンケートでは、以下に示す問題が把握されました。

表 4.観光客アンケート(H27)で把握された公共交通の問題点

視点	関係する問題点
ネットワーク（市外）	<ul style="list-style-type: none"> ●南城市までのアクセス手段の大半はクルマ利用 ●空港までの公共交通での移動が要望されている。
ネットワーク（市内）	<ul style="list-style-type: none"> ●デマンドバスの、南城市への誘客効果については確認されなかった。
運行サービス	—
交通結節・乗り継ぎ	—
公共交通までのアクセス	—
料金	<ul style="list-style-type: none"> ●デマンドバスのフリーパス導入の要望がある ●交通弱者の視点で経済的に負担をかけないようにしてほしい。
情報提供・接遇	<ul style="list-style-type: none"> ●大半の観光客が公共交通について何も調べずに南城市を訪れている ●ホームページ、SNS 等のデジタル媒体の情報収集活用者が少ない。(紙媒体や、クチコミのアナログ媒体で情報収集が多い) ●デマンドバスの認知が低い。 ●公共交通機関の情報提供が足りないという指摘が多い。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●観光客がビギナー、リピーターで 2 極化している。

1.4 問題点のまとめ

1.1～1.3 より公共交通に関する問題は以下のように整理されます。

表 5.各種調査で把握された問題点のまとめ

視点	関係する問題点
ネットワーク（市外）	<ul style="list-style-type: none"> ●市民、観光客ともに那覇空港までのアクセスが不便 ●その他では那覇新都心、那覇市中心部、首里等へのアクセス向上のニーズが高い ●観光客の移動手段がレンタカーに限られている ●高校生の通学は、親の送迎に頼らざるを得ない状況
ネットワーク（市内）	<ul style="list-style-type: none"> ●移動利便性に地域間の格差がある ●買い物、通院等の日常生活での移動が不便 ●観光客のニーズが高い海岸沿いの移動が不便 ●路線バスの運行頻度が少なく、行きたい時に移動できない
交通結節・乗り継ぎ	<ul style="list-style-type: none"> ●乗り継ぎ時間が長い ●乗り継ぎのため、市外のバス停まで出る必要がある
公共交通までのアクセス	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅からバス停までが遠い ●公共交通利用者のための駐車場がない
料金	<ul style="list-style-type: none"> ●交通弱者への負担が大きい ●乗り継ぎや、立ち寄り先が多いと費用がかかる
情報提供・接遇	<ul style="list-style-type: none"> ●どのバスに乗ればよいのかわからない ●多言語表示・案内が不十分で外国人が利用しづらい ●運転手のマナー、アナウンスが不十分 ●公共交通での来訪を案内しづらい ●観光客に南城市の公共交通が知られていない
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●過度にクルマに依存している ●少子高齢化の進展 ●ビギナーとリピーターの観光客の2極化

2 課題の整理

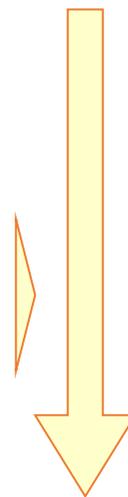
1 で整理した問題点と、南城市における社会経済状況の動向を踏まえ、公共交通の課題を整理しました。

各種調査等で把握された問題点

- 那覇空港をはじめ市外へのアクセスが不便
- 市外への移動手段が限られ、観光客はレンタカー、高校生の登下校は親の送迎に頼らざるを得ない状況
- 買物、通院等の市内の日常的な移動が不便
- 観光客のニーズが高い海岸沿いの移動が不便
- 路線バスの運行頻度が少なく、行きたいときに移動できない
- 待ち時間が長い、市外までの移動が必要と乗り継ぎの効率が悪い
- 公共交通までのアクセスが不便な地域がある
- 公共交通に関する情報発信が不十分で、どのバスを利用すればよいのかわかりづらい状況
- 観光客に南城の公共交通が知られていない
- 多言語表示・案内が不十分で外国人が利用しづらい
- 過度にクルマに依存している

南城市の社会経済状況の動向等

- 都市計画マスタープランでは、中核地と、旧4町村にある”まちの拠点”をネットワーク化する都市構造が示されている。
- 南部東道路の整備が進められている。
- 南部東道路玉城佐敷 IC 周辺は中核地として、市役所新庁舎、公共駐車場等の整備をはじめとする新たなまちづくりが行われる。
- 南城市の人口は合併から10年度2,200人、5.5%増加、総合戦略における目標人口は5万人(2040年)
- 人口は大里地域を中心に増加、一方、知念地域は減少傾向を示す。
- 少子高齢化が進展、高齢化率は合併から10年で18.9%→22.9%に増加
- 南城市の観光客数の目標は、5年後に320万人(総合戦略)

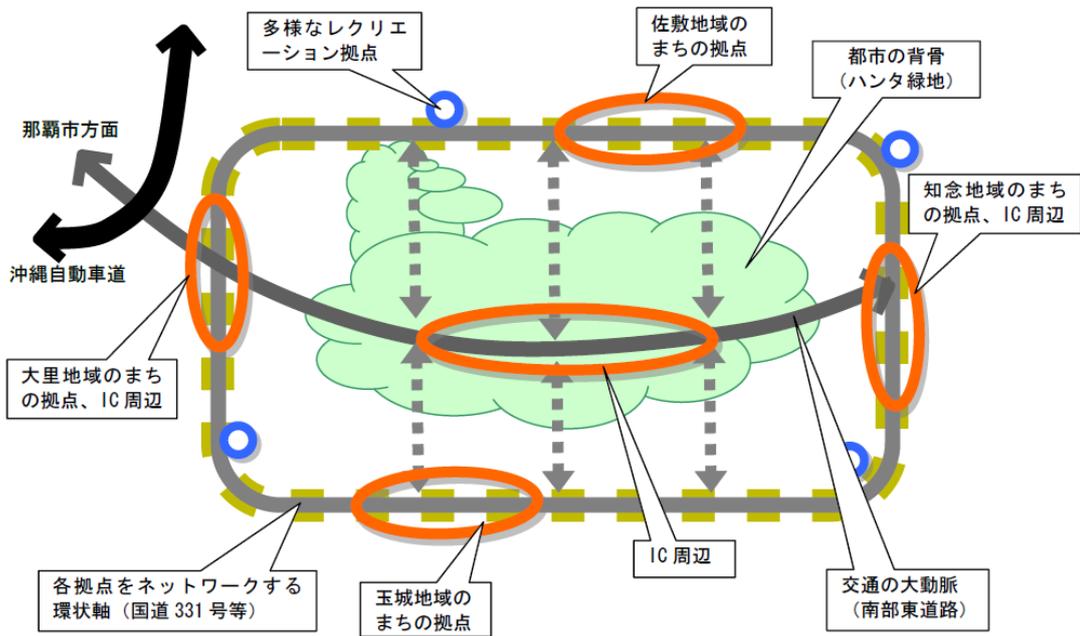


南城市における公共交通の課題

- 課題①中核地を中心としたあらたな都市構造に向けたネットワーク形成
- 課題②市内・市外の円滑な移動を支える交通結節機能の強化
- 課題③日常的な移動を支える交通手段の確保
- 課題④気軽に公共交通を利用できる環境づくり
- 課題⑤観光客の誘致や市内の回遊を促す移動環境づくり
- 課題⑥過度なクルマ依存からの脱却に向けた公共交通の利用促進

～ 参考 関連する計画・事業の概要 ～

【都市計画マスタープランにおける都市構造】



【南城市新庁舎の概要】



3 公共交通網形成計画の策定に向けた考え方

前項で整理した公共交通の課題をもとに、公共交通網形成の考え方を整理しました。

